

令和3年度 東京都立東村山高等学校 学校経営計画

東京都立東村山高等学校

統括校長 川 瀬 徹

1 目指す学校 教育目標 愛と創造

ひと
スローガン「他者のために、一歩先の自分へ」

—新校舎を活用し刻々と変化し続ける新時代を生き抜く力を育てる—

本校は、進学応援型エンカレッジスクールとしての強みを継承し、一人一人を勇気づけ、夢、希望、自信を与え、中途退学者を出さない学校づくりを推進していく。また、新校舎においてA I時代を見据えて社会的適応力を高め、ダイバーシティ東京の輝く未来に貢献する力をもった、常に学び続ける人間を育成する。このため、目指す学校像の実現を図る。

目指す学校像

- 1 丁寧な指導で生徒が安心して主体的に学び、基礎学力、特に「読解力」と「自ら学ぶ力」を伸ばす学校
- 2 文化的な活動やスポーツなどの感動体験を通して、生徒一人一人が達成感、充実感を得て成長できる学校
- 3 進学・就職等の進路希望実現を応援し、入学時より一段とステップアップできる学校
- 4 命・健康・安全を大切に、特に感染症等の防止に努めオンライン学習について試行と探究を行い、家庭（課題）学習と対面学習とを総合評価する学校

2 中期的目標と方策（認知特性に配慮し「読解力」と「自ら学ぶ力」を伸ばすプログラムの確立）

近隣地域からの期待に応え、「他者のために、一歩先の自分へ」をスローガンの下、幼・小・中・高・大の学校や地域との連携を深め、相互の教育力を活用し合い、将来、社会の変化に主体性・柔軟性をもって対応できる人物や社会人とし積極的に社会貢献できる人物となり得る生徒を育成する。

なお、令和2年度から6年度末までの5年間を新校舎を舞台とする教育環境整備期間と位置づける。特に、令和3年度から5年度末までの3年間を学びの基盤（読解力・自ら学ぶ力）強化期間とする。

- 1 日本一の進学応援型エンカレッジスクールとして、その指導体制の確立と教育システムを構築する。
このため、特別進学クラスの特性を伸長するとともに一般クラスの内容充実を図る。
- 2 授業力向上や個に応じた教育支援等の課題解決のための校内研修の充実を図り人材を育成する。
- 3 本校の特色をPRするため地域の中学校や塾と連携した公聴・広報活動を実施する。
- 4 スローガン「他者のために、一歩先の自分へ」に基づいて、基礎学力・つまづき克服、読解力、コミュニケーション能力、自ら学ぶ力、キャリア設計・社会貢献意識の5つの力を伸長する。
- 5 規律ある生活指導の下で、生徒の活躍できる場を設定し、生徒に主体性、協調性、責任ある態度を身に付けさせる教育を推進する。
 - (1) 体罰の禁止・根絶やいじめの未然防止・早期発見・早期対応、自殺対策基本法対応に万全を期する。
 - (2) 全教職員による一貫した指導方針のもと、全校体制で、生徒に基本的生活習慣を身に付けさせる指導を行う。特に安全指導においては自転車乗車マナー向上・交通ルール遵守を通じて事故ゼロを目指す。
 - (3) 多彩な学校行事の推進と対外活動への支援に向けて、顧問に加え会計年度職員も活用して生徒の心身発達を促すとともに、ホームルーム、生徒会活動、体育祭、文化祭を通して、役割と責任ある集団づくりを推進し、感動体験ができる指導を行う。
- 6 3年間を見通したキャリア教育の充実を図る。
 - (1) 早期に進路に対する明確な目的意識をもたせるため、学年ごとに特別進学クラスを1クラス編制する。
 - (2) 進路指導部と各学年が連携し、情報を読んで正しく理解できる力、説明の必要がある内容を適切に表現できる力、知識や技能をアップデートし続けて自己変革できる力の3つの力を身に着け付けさせる。
 - (3) 高大連携・高大接続を目指した進路指導を充実させる。
- 7 心と体の健康づくりを推進し、通級学級などの生徒一人一人の適応力を高める取り組みを積み重ね、特別な支援を必要とする生徒への合理的配慮を行い、常に一人一人の認知特性に応じた指導の改善を図る。
- 8 地域との連携を深めた教育活動とともに奉仕活動等、社会貢献活動に取り組む。
- 9 学校運営連絡協議会による学校関係者評価に基づき、学校経営の改善を行い、教育活動の質を高める。
- 10 学校経営計画を推進するための予算編成と施設・設備の整備を充実させると共に、課題解決を図るための企画・立案を積極的に行い、所属職員の意識向上を図る。
- 11 「働き方改革」を推進し、育児中の職員のキャリア形成の促進と介護・仕事の両立支援を図る。
- 12 村高未来創生事業（「日本一の教育の場」とすることを旨とする）を目指す。

3 本年度の取組目標と方策

- 1 取組の方向 ○すべての取組において感染症防止対策に十分配慮し、命・健康・安全を大切にする。
○真剣に学び直ししようとする者を誰一人取り残さない教育活動を展開する。

(その際体罰の禁止・根絶やいじめの未然防止・早期発見・早期対応、自殺対策基本法対応に万全を期する。)

【取組の方向1】 教育課程届の完全実施

中途退学防止（全員進級・全員卒業）を最優先ミッションとし、特別進学クラスと一般クラスのそれぞれの強み良さを明確にし、その長所を伸ばしながら、「他者のために、一歩先の自分へ」をスローガンに生徒を育成する。以下(1)～(6)について、別添令和3年度教育課程届にある通り、適正・確実に実施する。

- (1)各教科・科目の指導
- (2)特別活動の指導
- (3)生活指導
- (4)進路指導
- (5)総合的な学習の時間
- (6)体力向上・環境整備

なお、オンライン学習の試行（含 デジタル教材開発）に着手し、課題学習教材ストックを倍増させる。

【取組の方向2】 特色ある教育活動等

- (1) 教育目標達成のための特色ある教育活動

- ① 全校で計画的な朝学習を実施し、基礎学力定着及び読書活動を推進させ不読率を改善する。
- ② 第1学年の防災訓練において、集団行動や社会生活に必要なルールを身に付けさせる。
- ③ 特進・一般各々の内容充実、校内寺子屋事業の新規開設により、進学指導・キャリア教育の充実を図る。
- ④ 中学生を対象とした体験授業および体験入部、保護者および地域を対象とした授業公開を充実する。

- (2) 学校週5日制への対応

- ① 学校行事を週休日に実施し、保護者や地域の方々の参加を促し、開かれた学校を目指す。
- ② 学校行事を精選し、授業時間の確保に努める。
- ③ 放課後や長期休業期間中の補習を積極的に計画し、生徒の学力向上に努める。
- ④ 学力向上研究校として、校内寺子屋事業により家庭学習を補完し、主体的に学習する態度を育成する。

【取組の方向3】 村高未来創生事業（「日本一の教育の場とすること」を目指す）

- (1) グランドデザインを踏まえ、新学習指導要領に基づく教育課程実施準備を推進する。
- (2) 高大接続改革に向けた対応を図る（特にポートフォリオとキャリア教育推進及び上級学校連携）。
- (3) 教職員による主体的研修事業の推進を図る（特に校内授業研究とキャリア教育研修）。
- (4) 「学びの基盤」プロジェクトによるプログラムへの検証協力を通じ「読解力」と「自ら学ぶ力」を育成する指導法を開発・研究・検証する。第54期生を検証学年とし、令和3年度から同5年度まで継続取組する。
(ア) 社会生活を送る上で、最低限必要となる読解力を高める教育プログラムを開発・研究する。
(イ) 生徒の多様性に着目し、その生徒に合った学び方で基礎学力を高める教育プログラムを開発・研究する。
- (5) 通級学級プロジェクトチームと自立支援活動チームの連携により教育力向上を図る。

【取組の方向4】 新校舎はじめ新施設の活用とグラウンド造成工事への対応

- (1) 新教育施設の十分な活用に努めるとともに、工事中の防災対策及び校内安全対策に努める。
- (2) 旧校舎解体・新グラウンド造成により教育環境の整備を図る。
- (3) 校外の体育施設を積極的に利用するなど（例；特にグラウンド種目における外部施設利用）、必要措置をとる。

【取組の方向5】 働き方改革

- (1) 育児休暇取得経験者等を講師とする子育て研修会をはじめとして、働き方改革研修会を開催する。
- (2) 平成30年7月6日公布「働き方改革関連法」等を誠実に遵守する。

2 最も重点を置く取組と方策

- (1) 【取組の方向1】 教育課程届の完全実施

- (2) 【取組の方向3】 村高未来創生事業

東京都教育委員会よりの指定校 ①学びの基盤」プロジェクト研究協力校（令和6年3月まで）

②学力向上研究校（校内寺子屋事業）第1年次（前年度より継続）

3 本年度数値目標

項 目	令和3年度の具体的な目標及び数値目標	
取組の方向1	オンライン学習試行 中途退学者・転学者数合計 教育相談充実 進路決定率 アクティブプラン to 2020 参考取組	5教科以上で実施またはその立案 各学年5名以内（全校合計 15名以内） Y S Wと S Cへの相談件数合計460件 90%以上（就職内定率100%、進学＝センター利用1名以上、一般受験1名以上、日東駒専クラス以上4名以上） 体力テスト総合評価AとB合わせて35%以上
取組の方向2	年間のべ遅刻者数 1学年 校内寺子屋出席率 2学年 不読書率 3学年 キャリア・進路学習 図書館利用活性化 部活動加入率 国際理解	3500名以内 90%以上 35%以下 年間20回以上実施 全校図書貸出冊数 年間のべ3000冊以上 1学年100%、年度当初全学年85%以上、3学年65%以上 グローバル化社会対応とオリンピック・パラリンピック学習 東京都英語村利用150名
取組の方向3	読み書きアセスメント、日本語検定1・2回、リテラス 漢字検定・英語検定	学びの基盤プロジェクト研究校事業に係る検査毎回190名以上実施 漢字検定3級以上と英語検定3級以上との合格者合計30名以上
取組の方向4	学校・財務局・都立部・工事業者による打合会議 一般需用費センター執行割合	毎月3回（年間35回）程度実施 60%以上
取組の方向5	働き方改革研修会開催 ライフ・ワーク・バランス	年間4回以上 月当たり時間外勤務45時間を超える教員をゼロにする 全教職員の年休5日以上取得を目指す。
応募・入学選抜	入選中進退倍率 入選推薦募集倍率 入選前期応募倍率 ホームページ更新 若鳩だより	1.4倍 4.0倍 1.4倍 年間200回以上 毎月外部50か所以上に配布